

はじめに

文京区では、文京区基本構想に掲げる将来都市像の実現に向けて、令和3年3月に令和3年度からの3年間を対象とする「文の京」ハートフルプラン文京区地域福祉保健計画を策定し、総合的かつ効果的な地域福祉保健施策の推進に努めています。

近年、少子高齢化や核家族化の進行、単身高齢者世帯の増加、就労形態の多様化、地域社会の連帯感の希薄化など、社会状況が大きく変化しています。また、虐待やひきこもり、認知症高齢者の増加、子育て家庭や高齢者等の孤立など多様化・複雑化した福祉保健課題が増大しており、それらに対してきめ細かく対応していくことがますます求められています。

このような地域福祉保健を取りまく現状や多様化するニーズの変化を踏まえ、だれもが住み慣れた地域で安心して暮らし続けるために、以下の取組を行ってまいります。

まず、児童福祉の分野では、新型コロナウイルス感染症の影響による生活様式の変化等により、多様な働き方を選択できる社会を実現していく取組が進められていますが、子育て世帯においては、子どもの視点を忘れずに、子どもの人権を守りながら、ワーク・ライフ・バランスの実現が図られるよう、子どもを第一に考えた子育て支援を推進してまいります。

高齢者福祉の分野では、高齢者が住み慣れた地域で安心して暮らし続けることができるよう、フレイル予防・介護予防の取組や在宅医療・介護連携の推進、さらには、住まい・生活支援を一体的に提供していく地域包括ケアシステムの構築を進めます。その上で、認知症の方や家族が、安心して暮らせる環境を整備していきます。また、元気な高齢世代が社会参加・社会的役割をもつことによる生きがいづくりの支援を進めるとともに、地域活動の担い手として活躍する場を拡大するなど、高齢者の地域における豊かな暮らしを支援してまいります。

障害者福祉の分野では、障害の有無によって分け隔てられることなく、住み慣れた地域社会で豊かな生活が送れるよう、障害者の自立支援や社会参加が実現できるまちを目指します。このため、障害者への日常支援の充実だけでなく、障害者差別解消法の趣旨の浸透を目指して、区民の障害理解促進に努めるとともに、情報や心のバリアフリー化を推進することで、だれもがお互いに人格と個性を尊重し、支え合いながら、ともに生きる地域社会の実現を目指してまいります。

生活福祉の分野では、新型コロナウイルス感染症生活困窮者自立支援金などコロナ禍で生活に困窮した方への国施策は終了し、緊急小口資金及び総合支援資金の特例貸付の償還が始まっています。償還が困難な生活状態の方には、自立相談支援機関の家計改善支援事業等の相談支援の充実や関係機関との連携強化により自立支援に向けた取組を進めます。また同時に、必要な方が適切に生活保護につながる相談体制を強化いたします。今後も生活に困窮する方や社会的孤立に悩む方等、それぞれの事情に寄り添いながら必要な支援を行ってまいります。

この「ぶんきょう（文の京）の社会福祉」は、本区の福祉関連の施策について、過去5年間の実績等を盛り込み、できるだけわかりやすく取りまとめた事業概要です。本区の福祉行政の現況を理解していただくための一助としてご活用いただければ幸いです。

なお、令和2年度から令和4年度は新型コロナウイルス感染症の影響により、実績が減少した事業が多くなっております。

令和5年9月

福祉部・子ども家庭部

